女性同盟

大正九年十月一日第三種郵便物認可
大正十一年六月一日發行



六月號



女性同盟

六月號目次

新婦人協會綱領

一、婦人の能力を自由に發達せしめるため男女の機會均等を主張すること。

一、男女の價値同等觀の上に立ちて其の差別を認め協力を主張すること。

一、家庭の社會的意義を闡明すること。

一、婦人、母、子供の權利を擁護し、彼等の利益の增進を計ると共に之に反する一切を排除すること。

新婦人協會宣言

婦人も亦婦人全體のために、その正しき義務と權利の遂行のために團結すべき時が來ました。今こそ婦人は婦人自身の教養、その自我の充實を期するのみならず、相互の堅き團結の力によつて、その社會的地位の向上改善を計り、婦人としての、母としての權利の獲得のため、男子と協力して戰後の社會改造の實際運動に參加すべき時であります。若しこの時に於て、婦人が立たなければ、當來の社會も亦婦人を除外した男子中心のものとなるに相違ありません。そしてそこに世界、人類の禍の大半が置かれるのだと思ひます。

私共は日本婦人がいつまで無智無能であるとは信じません。否、既に我が婦人界は今日見るべき學識あり、能力ある幾人かの新婦人を有つてゐます。しかも私共は是等の現はれたる婦人以外に、なほ多くの更に識見高き、思慮あり、實力ある隱れたる婦人のあることを疑ひません。然るに是等の婦人の力が一つとして社會的に若しくは社會的勢力となつて活動して來ないのは何故でありませう　全く婦人相互の間に何の聯絡もなく、各自孤立の狀態にあつて、少しもその力を婦人共同の目的のために一つにしやうといふやうな努力もなく、又そのための機關もないからではないでせうか。私共はさう信ずるものであります。是れ私共が微力を顧ず、同志を糾合し、茲に婦人の團體的活動の一機關として「新婦人協會」を組織し、婦人相互の團結を計り、堅忍持久の精神を以て、婦人擁護のため、その進步向上のため、或は利益の增進、權利の獲得のため努力し、その目的を達せんことを期する所以であります。

大正九年三月二十八日

新しく起るべき婦人參政權運動に就て

奥むめお

歐米では、婦人參政權獲得の運動はもう一段落をつげてしまつてゐます。婦人參政權の問題はもう疾くに解決された、一昔前の話しになつたと云つていゝのです。英國では一九一八年の大改正以來、成年婦人の約半數が參政權を獲得しましたし、北米合衆國を初め、オーストリアでも、ホンガリアでも、オランダでも、ポーランドでも、又其外の多くの國々がみな既に婦人參政權を認めてゐます。勿論戰後のドイツやロシアのやうな新興國では、政治上に男女は全く同等の權利を持つてゐます。獨逸共和國では、憲法第百〇九條で、

『男女は基礎的に同一なる市民としての權利及び義務をもつ』

といふ明文を有して、獨逸人民といふ場合にはいつでもそれは、男女兩性を含むものであつて、男女は一切の公民權、市民權の前に平等であることを示してゐます。全ての國を通じて、單に政治上の地位ばかりでなく、法律上にも道德上にも凡ゆる日常生活の上で男女は人間として同等に待遇せられなければならないものであるといふ事が、次第に一般の常識となつて來つゝあるばかりでなく、實際に於て事實がさういふ傾向に動きつゝあるのを見のがす事が出來ません。

それに比較してわが日本に於ては、婦人の參政權運動が未だ起つてゐないばかりでなく——新聞紙の

傳ふる處によりますと、基督教婦人矯風會では、新たに婦人參政權協會をまうけて、わが國に於てのこの運動の第一指を着けたやうでありますが、未だ實際運動に迄は至らないやうです――つい先達て迄婦人は政治上に全く認められず、一人格者としての取扱ひを拒まれてゐたのであります。いつ迄經つても婦人の參政權問題は時機尙早の下に顧りみられないでゐたにも係らず、政治的自覺を喚び起し、その敎養を積むために必要な凡ゆる機會を、單に婦人であるといふ理由の下に拒んでゐたといふ事は大きい矛盾であつたといはねばなりません。

然し、非常に遲ればせ乍ら、とにかく治警第五條は修正されました。「政談集會に會同し、其の發起人となる」自由を、われ〳〵婦人は今度新たに獲得しました。次に來るべきものは婦人參政權の運動であります。私は治警の修正運動は、當然婦人參政權運動の前程をなすものであると思ひます。然し、云ふ迄もない事ですが、婦人參政權運動は婦人運動の全てゞもなければ、婦人解放運動の最後のものでもありません。歐米の諸先進國で既に婦人は參政權を獲得して、政治運動としての婦人運動はすでに成巧に近い結末を告げてゐるにも關らず、婦人の地位はその運動を始めた當初に夢想されてゐたやうに、奴隷的な存在から決して完全に救はれてゐない事、そして、それが勞働運動と結び付いて、今や一新轉機を作らうとしてゐる事に注意しなければなりません。

顧つて現在の日本の婦人の生活を考へた時に、政治上に全く無權、無能であるばかりでなく、當然過ぎる程の要求であるところの政治的自由の獲得をさへ、自分自身の問題として考へる事の非常に少ない今日の多くの婦人の狀態に眼を蔽ふ事が出來ません。勞働運動に對して最後の匙の投ずるものが勞働者

自身でなければならないやうに、婦人運動でも其の根本に於ては、婦人の自覺と要求に俟たなければならないものであると私は思ひます。曾つて永井柳太郎氏が婦人參政權の可否如何といふ私共の問に答へて、

「婦人の參政權は、婦人が如何に痛切にこれを要求するかに依つて決せん」

といふ返事を寄せられたのは、考へなければならない多くの暗示を與へる言葉として、思ひ出されるものであります。

私は今度の治警第五條の修正が、もつと大きい反響を社會に、殊に一般の婦人の間に起すべきであると思はれてなりません。私は、治警運動も、婦人參政權運動も、これを婦人の啓蒙運動としてみる時に初めて、その存在の意義と價値とが判然として來るのだと思ひます。もし一部の急進論者の說くやうな急激な社會的變化が當分來ないと假定するならば、普通選擧運動に伴つて、わが國の婦人の間にも參政權を獲得しやうとする新しい運動が起つて來るにちがいないと思はれます。唯、今後に起つて來るべき婦人參政權運動は、決してこれ迄歐米に於て行はれて來たものゝ樣な、單に男子と相並んで政權にありつかうとする――所謂政權獲得のための運動であつてはならないと思ひます。今日わが國に起つてゐる普通選擧要求の運動に對して抱く私の不滿も、實にこの點にあるのですが、全くあの、山王臺や芝公園あたりに熱狂する群衆の運動を目擊しても、私たちは、少く共私自身は自分の胸に何の感じも興奮も與へられません。現在の社會は、どの方面から見ても、根本的なその組織の改造を促されてゐるのです。婦人運動も、必然的にそれに結びつかなければ嘘だと思ふのであります。

云ふ迄もなく社會の改造は、男女の協力に俟たなければなりません。もし婦人がこの大きい使命に觸

れる事なく徒らに過ごすのであつたら、この大きい仕事の大半は徒勞に終つたといはれても仕方があるまいと思ひます。

私達は現在の政治が、又社會組織が何故に、又如何に改造されなければならないかを、長い間蔽はれてゐたこの婦人自身の瞳で以て明確に見定めなければならないのだと思ひます。さうして、單に參政權といふやうな問題だけに婦人の力を集注させるのでなくて、もつと根本的に、現在の社會組織の改造に婦人解放の運動を結びつける事に、より多くの期待をかけなければならないのだと思ひます。單に中產階級、智識階級の婦人が現在の政治をそのまゝ承認して、政權をえやうとするのではなくて、今後の婦人參政權運動はもつと廣い立場に立つて、現在の政治組織を改造してゆくための一つの手段として意義あらしめたいものであります。

日本に於ける最近のいろんな社會運動やその一部である婦人運動の經過を見るにつけても痛切に考へさゝれる事は、日本人と云ふ民族が如何に過去數千年來の英雄主義や、軍國主義に毒されてゐるかと云ふ事である。彼等の血を支配してゐるのは依然として神ながらの征服欲である。人間としての生活のない處に哲學も宗教も科學も有り得ない。況んや凡ゆる團體生活の根本基潮である社會的共同觀念のあり得やう答がない。御祭り騷ぎと、仲間喧嘩と、獨善主義の國民よ、歌へ舞へ祈れ、いがみ合へ、だが人間生活を無視した處には、必然的に近代生活が齎らす經濟的どんづまりがあるばかりだ。

吾々はたゞその絕望の中から自然が與へてくれる唯物史觀の現實と、唯心的平等觀の眞理を待つばかりだ。（XYZ）

治警第五條修正運動の概畧

坂本眞琴

一、時の流れ

治安警察法中には、時代の進化と共に當然改正されねばならぬ幾多の條項がある事を信じます。婦人の自由はいろ〳〵の方面から不當に拘束されて居りますが、とり分け此法律は如何にも理不盡に婦人を低能扱にして居りましたものです。故遠藤清子氏がこの問題で運動をされたのはもう十餘年の前で、新婦人協會が其實際運動の重要な一つとして此の問題を撰んでからも既に三年になります。時の流れが、曾ては問題にもしなかつた事柄を、當面の婦人は勿論一般の男子にも、「女子及」の存置が、不當矛盾極るものである事を承認せしめるやうに致しまして、此削除案は昨年は一院丈通過し、本年は兩院を通過して確定議となりました。

一小法律中の一ヶ條中の一項の、その又一部分の削除は、見方によつては至極小い事柄であるかも知れません。然し私共は先づ實行可能の個所より出發して、一歩づゝしつかりと大地を踏むやうにして、着實に、眞摯に、婦人の正當な權利を恢復し、内に修養と研究とをつんで、遂には平等なる選擧、被選擧の資格を獲得する迄に進みたいと思ひます。

昨年迄は協會は、平塚、市川の兩氏が中心となつて熱心に活動せられまして便宜の點も多う御座いましたが、平塚氏病み市川氏の遠く去つた本年は乏しき經驗の私共數名が、各家庭を控へて、乏しい時間を割いての運動をせねばならぬ事となりましたので、困難も一層で御座いました。次に通過迄の概略を摘記報告いたします。

一、貴族院

二月一日に「女子及」の削除案（政友會、一宮房二郎氏提出）が衆議院に上程されました時には、他により廣き範圍の修正案が國民黨、憲政會、無所屬からそれ〴〵提出されまして、直ちに一括して委員附托となりました。私共は衆議院の方は昨年通過の事ではあるし、且つは政友會提案でありますので全く安心し切つて居りましたから、暫く貴族院方面の運動にのみ力を注ぐ事としまして先第一に昨年此案の反對演説をせられた、藤村男爵の諒解を得たく、議院で會見を申込みました所、自宅でゆつくりと話し度いとの事でしたので、風が激しい二月十七日の夜、奥むめお氏と私と二人で中野の藤村邸を訪問して、二時間餘り私共の運動の眞意、協會の實狀等を詳しく述べました。男爵は先づ昨年の反對演説の經緯に就て、政治上の極めてデリケートな點を私共に腹藏なく説明されましたが此點は茲には省略します。治警問題に就ても、昨年は貴族院が一向に問題にしてゐなかつた事を述べて、多くの議員が此の問題を頭におくやうになれば、至當な事だから必らず賛成するだらふ、それには出來る限り多くの議員に會つておくやうにと奬められ、御自身が賛成である事をはつきり言明されました。此外男爵は「婦人が政治にたづさはる事は、寧ろ非常に氣の毒の樣にも感じられる、アナタ方にはもつと社會的の方面の活動を希望する」と云ふ意味を可なり力強く申されましたので、私共は政治にのみ奔走する事なぞは更に念頭になく、職業問題、母性保護、研究、講演等に平常力を注いで居る點を、協會の内容と共に詳細に御答へして、嚴存する國家の法律に「女子及」の存在は、婦人を低能扱にする寧ろ恥しい公事實であり、且つは各種婦人の社會的活動にも直ぐ樣この條項が妨げとなるので、先第一にこの削除を希望する意味を述べて男の諒解を得たのでした。

三月に入つてから、奥氏が家庭に重大な用務が生じ外出が意に任せぬやうになりましたため、私と兒玉氏と衆樹氏の三名が連日貴族院に通ふ事になりました。

この運動の最初よりの同情者である鎌田榮吉氏の御注意により、研究會、公正會、茶話會、同成會、交友倶樂部の各幹事數十名の方々に、貴院内で、又はその自宅で面會をして了解をうる事につとめました。

勿論面會は、悉くスラ／＼と運ぶわけには行きませんでした、手分けする程の人もありませんのでずい分手違ともなりました、然し正面より面會を拒否された方はありませんで、全く多忙の爲めその時のない方は懇ろに其趣を傳へられました、德川議長にも一兩回名刺を通じましたが全く多忙で書記官が丁寧にその意を傳へてくれました。面會した方々は大ていは同情されまして、それからそれへ、丁寧に紹介して頂く事を得ました。此間德川議長をはじめ、訪問して面會し得なかつた方々へは、直ぐその夜に手紙で依賴を出すことに務めました。

一、衆　議　院

安心し過ぎた衆議院の方が、續々起る重大案の爲めにさつぱり委員會が開かれませんので、政府提出の山のやうな重大案の議了に到らない事と、會期が切迫した事とを考へ合せて、そろ／＼握り潰しが心配になつて來ましたので又衆議院の運動をする事になり、先委員會速開運動に着手しました。

委員長木下成太郎氏を訪ねたのは三月十日でした。協會員十數名にてサンガー夫人を横濱埠頭に迎えて後、兒玉氏、衆樹氏と三名、雨の中を木下氏のお宅に參りました。同氏は私共の眞希望が、「女子及」の削除丈で滿足するものでない事を見拔かれて、植原悦二郎氏が自黨提案の廣い修正を主張して止まない點を說明せられ、それに就いての私共の感想などもお尋ねになりました。私共は目前の實際問題として「女子及」の政友會案の通過にのみ、全力を致したき事を述べました處、委員會は早速開會して通過に務めると申され種々の點に就て注意を與へられました。これで漸く運動が具體化された、これからであると思つて同邸を辭し乍ら、私はもつと早く委員長訪問の擧に出でなかつたおろかさを今更に感じました。

一、委員會傍聽

木下委員長邸での面談中に、同氏は婦人新聞記者として委員會傍聽は差支ないと信ずる、今研究

中だから、決定を待つて知らせるから記者として傍聽して見よ、とのお話がありましたし、院内では殊に植原氏が此問題に熱心に御盡力下さいましたので、私共も婦人の委員會傍聽は、全く前例のない事で、それが出來たらば、必らず一般の注意をより深く喚起する事にもならふと信じて喜んでゐました。十三日の夜、木下委員長から左の電報が參りました。「ジケイアス一〇ジイインカイヒラキケツテイスフジンキシヤニウゼウユルス　キノシタ」

十四日の早朝　院内で新聞記者章を借りる事で大分骨を折りましたが、同情ある記者の了解で、兎も角も臨時囑托記者として、私共有志五名が委員會の開かれる第六號室に傍聽に入りました。

婦人傍聽が前例なき事であります上に老守衛の誤解から、一時退席要求がありましたので、此問題は、豫期以上に各新聞の紙面を賑はす材料となつて仕舞ひまして、「つまみ出さる」と書いた萬朝の讀者である私の知人の二三は、その記事を眞面目に憤慨した書を私に寄せて呉れましたが、事實は左程の事ではありませんでした。

守衛の誤解が溶けて再び傍聽席に着かうとした時二階から走つて來た他の守衛が、治警案は委員會で滿場一致で可決しました、と報告してくれましたので、私共は安心と張合抜の態で退場しました。要は問題にすればいゝ、それが此運動に對する一つのデモンストレーションだからと、木下、植原兩氏が畫策して下さつた此事件は、こうして此老守衛の爲め却つて大きい響を起した事になりました。

> 尙特記いたして置きます、私共委員室退場後の交渉にて、書記官長、守衛長、議員の了解成り、將來は婦人記者の委員室出入は何の故障もない事になりました、これは私共今期議會運動中に得た、思ひも設けぬ副產物で御座います、

委員會で可決された案が、再び十六日の本會議に上程になる筈であつたのに、遂に延期された事は傍聽してゐた私共の心を暗くして仕舞ひました

木下委員長にこれを訊すと十八日には屹度上程する、日限は切迫しても政府とも打合せてあるから心配はないとの御意見なので、幾分安心をしな

がら、貴院の方は怠りなく毎日出かけて居りました。(十七日に上程にならなかつたのは、憲政會提出の政府不信任案の上程日だつたからでした)
　愈々十八日の本會議には、第一讀會の續として上程されて、無事に通過しました。

一、再び貴族院

　十八日に下院を通過しましたが、十九日の日曜日、廿一日の祭日を控えて居りますので、私共は焦慮に焦慮を重ねて、即日徳川議長、河井書記官長はじめ、あらゆる方々に宛て、腕のつゞく限りの依頼狀を認め、一方研究會の八條隆正子爵、吉田清風子爵の御盡力により三部交渉會の夜、多くの貴族院内での有力な人々に會つてこの案の通過するやう依頼しました。
　斯くて廿日の本會議に上程され、直ちに議長指名の左の九人の委員の手に移されました。

佐々木行忠侯、服部一三氏、山川健次郎男、高田早苗氏、藤村義朗男、鎌田勝太郎氏、板倉勝憲子、松平賴壽伯、今園國貞男、

議會通の一記者は、この選任は、誠に此上もない妥當な可決を豫測し得るもので、私共の爲めには非常な便宜である旨を語つてくれました。

　然し委員會はすぐには開かれませんでした。私共はもう半ば失望して、ともするとくぢける勇氣を振ひ起し怠りなく貴院の應接間に半日以上を費しました。
　廿二日午前中、私共は刺を通じて委員長佐々木侯爵に委員會の有無を問ひました處、本日午后一時開くとの返事を得ましたので、委員會の終了を應接室に待つてゐました。そして藤村男爵より全會一致可決の報を得て、喜び勇んで殘る二日間あらん限りの策を盡し、最後迄踏み止まる決心を以て貴院を出ました。廿四日に上程になれば今年は大丈夫通過する、若し廿五日だつたら或は亦去年の悲運をくり返すかも知れないと云ふやうな不安を感じました。取り敢へず會員諸氏には上程日に傍聽して頂くやう御通知するのも、手少なの協會には忙しい仕事の一つでした。
　廿四日の日程にはのりましたが、此日は過激法、

昇格豫算の二大案の審議で夜の十時過迄を費し、日程の大多數は延期されました。

斯様にして「女子及」の削除案は取り殘されて、山なす多くの議案と共に、議會の最終日に、その最後の決定を見る事となりました。「駄目だ」と云はれた方が多く御座いました。他の多くの議案を延會の餘議なきに到らしめた昇格豫算案は、二十日中にはまだ委員會には廻つて居りません、如何に衆議院通過案にしても、僅か一日二日でこれの審議可決を望むとは、政治には隨分、思ひがけない無理もあるものだ、と沁み〴〵感じながら、私は「あと一日」の奮鬪を期して兒玉氏と別れました。

廿五日は早朝から、貴院の應接間に參りまして、面會、名刺依頼とくる〳〵廻りして居る中に、議塲では午後三時頃、昇格豫算の質疑應答を漸くすまして、委員會に廻され、續いて陪審案の第一讀會の續きの討論で夜に入りました。此の間松本氏、樋原氏、記者諸氏はこも〴〵私共に激勵されたり、又は種々の情報を知らしてくれました。松本先生の御忠告迄もなく、私は散會迄はたとへ何時になつても傍聽する覺悟でしたが、あまり後れての歸宅を少々心配して居ります時、夫の友人二名が傍聽がてら、終り迄居るやうにとの傳言をもたらしてくれましたのでホントに安心しました。

一、通　過

午後九時、四十五議會の會期はあます所僅かに三時間の貴院の議場は、昇格、陪審、の二大案の運命を握つて、云ひ知れぬ動搖と凄慘の氣が流れて居りました。陪審案の質疑は、貴院の鬪士をすぐつての矢つぎ早で何時果つとも見えませんでした。私共はも一度何とかして議員の注意を「女子及」案の上に引き度いと思ひまして、これがもう殘された最後の一つだと信じて、急いで控室に飛び込んで、三百枚以上の名刺へ、祈る心で、夫々賛成懇願の旨と宛名とを認めました。毎日々々の取次にいやな顔一つせぬ守衛は、此度も喜んで、一つ一つ議席に配布してくれました。それは高い傍聽席からは、白い一點々々となつて見られまし

た。淋しい三人だけの婦人傍聽席を顧みる方も御座いました。私はこの一事は相當に注意をひいたものと信じて、後は靜かに傍聽して居りました。

握り潰しの暗雲は一刻々々深くなつてゆきました、十一時が過ぎても陪審案です。柳澤伯が起つて「議長」と呼んだのは十一時十分過ぎ、伯は此際陪審案の審議を一時中止して、衆議院廻附委員會通過の諸案を上程し度しとの動議を提出されました。暗雲は一時に晴れました。四五の案は異議なし〳〵の聲に送られました、十五年來の否決案少年禁酒法も芽出度異議なしで可决され、私共の案は十一時四十分副委員長服部一三氏の報告と、簡結無比の賛成演説の後に、議長は决を起立に問ひました、私共の顔は熱し、躰は自然と前に出ました。三旬の議會通ひ今此一瞬と耳を聳立ました。

「多數と認めます、本案は可决されました」

德川議長の聲は、私の耳に金鈴の如に響きました。ほゝ笑み乍ら顧みて下さる議員諸氏に心の中で厚く感謝し、十一時五十分私共のため最後迄傍聽して居て下さつた松本氏の祝辭に御禮を述べて、院を出たのは十二時五分前でした。

一、思はせらるゝ事共

△松本代議士の主唱と御盡力とで、二月九日中央亭で、この問題の懇談會を開きました折、島田、尾崎兩先生、時事の山浦、讀賣の谷氏なぞが、泌み〳〵と、固い障壁へ錐で穴一つ小さくあける事です、一本鎗に先づ「女子及」の通過のみを、念として運動をなさるがよろしい、と云ふ意味の話をなさいました。私はその通りだと思ひまして、只理屈なしに、依賴いたして廻りました。どなたでも親しく御目に懸つて、申上げて見ますと、事柄が簡明な丈に、直ぐに御了解下さつて、色々と御盡力下さいます。玆で私は口に一言も云はなかつた、思はせらるゝ事共を、筆の上で一言丈述べる事を許して頂きます。

帝國議會はその回を重ぬる事四十五です、その間、婦人の爲めの問題が、法律案として、審議されたのは、思ふに最近二回のこの治警案丈であらふと存じます。

數ある婦人への不當拘束中の、最少限度の解放です、上下兩院の方々一般にも少し、進んで私共を誘導しもつと安易な通過をみせて、婦人は內にあつてよき母性の發達に努め、修養と研究とを積めよ、然らば立法の府は必らず、やがては漸進的に結社の自由も選擧、被選擧の資格も與えるぞ、と云ふ立派な暗示を與へて頂き度いものと思はされました。

△衆議院に、彌次と怒罵と、混亂とがあり、貴族院に清新の生命に乏しい傾向のあります事は、爭はれぬ事實と存じます、この爲めに議會そのものに對してずい分酷評を下し、議會政治の否認に近い言論をよく聞きますが、私は純理上は勿論、實際上からも、決して左樣には思はれません、衆議院には慥かに生命と權威のある言論が芽生えて、これを傾聽、共鳴する人も多いやうに思はれます。これ等の新らしい芽生がやがて成長し、傾聽、共鳴する者は情實を離れて贊成するに躊躇せぬ議員が、よりよき選出法と共に增加したならば、これ等の新らしき生命ある言論は實行の背景を得て、議會は絕對に民意の代行所となる光輝ある日が必らず來るものと私には思はれました。

治警修正祝賀會

四月八日日午後五時より、本部主催で祝賀會をした。參會した會員は十數名、可なり氣焰が上つた。貴衆兩院議員中でこの問題に多少の交涉を持つた全ての人に案內を出したが、參會せられたのは衆議院の星島二郎氏と松本君平氏だけであつた。星島氏は稍おくれて見えて、『今晚はこの日米華の樓上で實に盛大な祝賀會が行はれてゐるものと思つて來たのに、兩院議員がこんなにこの問題に冷淡である事は驚く外ない。「女子及び」の削除は實際小さい事である。然しこの小さい改正が、近き將來にどんなに大きい變化を政治上、社會上に來たすかといふ事に就て今の議員の多くは丸で無神經なんだ。自分としては此の際、婦人方が大いに自重して汎ゆる方面にその實力を活かされるやう切望する』云々と述べられた。

純我の愛に生く

椙本まさを

◎

雜念雜想に苦しめられて、眠らうとしても眠られないやうな夜には、此頃良寛和尙の歌などを見るやうにしてゐます。歌には何等の知識も有たない私ではありますけれど、良寛の歌の無技巧なのには、「これでも歌かな。」などと半ば惘れ、半ば驚異の眼を睜つて讀んでゆきます。が中には尊いものがあります。技巧化された藝術品といふよりは、藝術へ達する內部生命の熾熱した心境そのものが歌つてあるといふ意味で、私は淚を流して讀んでゐます。

　飯こうと、我この宿を過ぎしかば、萩の盛りにあひにけらしも。

　黑染の衣をまとつた坊主が、ある村落に托鉢して來たが、そこの家の門邊には白萩が眞盛りで、靜かな邊りには萩の匂が漾ようやうにかはつてゐた、といふ靜かな諍い世界だと思へるではありませんか。

　柴の戶の冬の夕べのさびしさを、浮世の人にいかで語らん。

　浮世の人である私達には、柴の戶の冬の夕べのさびしさは分りません。分りませんが味ひたいとは思ひます。煩惱具足の苦しみを苦しむ身には、かうした徹底靜地に、飽くまでも心耳を澄ませて寂しさを感じたいとは思ひます。

　良寛も亦浮世を捨てゝ、而も浮世の人達の溫情を捨てかねてゐる良寛には、この夕べの冬の淋しさを浮世の人にいかで語らうか、語つても分るまい、又語るよしもない、かうは思ひながら、而も語りたい氣持は有つてゐるらしいのです。

この徹底靜地には一人居るこそ一番好い、一人居るが故に靜かなのである。とは知つてゐながら、而もこの靜かな味ひを誰かに話してきかせて遣り度い、かう思つてゐるらしいのです、浮世は捨てたが、しかし人の情けまで捨てきらないところに、何とも言へない懷かしさが溢れてゐます。

かと思ふと、

飯こうと、里にもいでずなりにけり、昨日も今日も雪の降れゝば。

といふやうな、人里に行乞することを毎日の生活にしてゐる和尚が、今日も昨日も雪が降つて、山から下りられないのをいくらか淋しさうに感じてゐる氣持が、更に更に人間味を深くしてゐるやうで、私には耐らない程好ましい歌です。

この夕べ、岩間のたきつ音せぬは、たかねのみゆきつもるなるらし。

といふ一首の心境に至つては、私はあまりな嚴肅さに、思はず自分のしてゐることが省られるやうな氣持ちになります。何とも言へない寂寥が身に迫るのを覺えます。都會から離れ、文明から背馳して、自然の面前に儼然として相向うが、かうした絶對主觀に生きる人々の最も都合の好い生活だとは思ひますが、しかし瀧の音すら封じこめるほどの深い雪の夜に、寂しさより他には友とすべき何物もない自分を見いだした時はどんなだらうと思ひます。寂しさを愛しながら、而もその寂しさに徹しきれない身には、かうした歌がほんとうに有難いと思ひます。

◎

寂しさはその人自身のものであり、神の救ひはその人にのみかぎられた世界ではありますまいか？この意味に於て、私は近來宗敎の宣傳には一種の嫌味と虛僞とを感じないではゐられません。

何も宣傳そのものが惡いといふのではありませんけれども、宣傳の爲めに宣傳してゐるやうな、空景氣と、職業的な氣持ちは嫌ではありませんか、

この意味に於て、流行兒扱ひされてゐる西田天香氏の將來がいやに危險に思はれてしやうがないのです。私はあの簡靜そのものを愛してゐる西田氏が、あの懺悔奉仕の生活を賣物にして步いてゐ

ることは思ひません。寧ろ反對だらうとは思つてゐますけれども、所有欲より他には何者もない都會人を相手にして、默々と懺悔奉仕の忍辱をつづけて行くあの力强さには敬服させられますけれども然し下手に理解し安呑みこみに呑みこむ連中の手によつて、所謂安價な宣傳ぶりを發揮されては耐らないと思ひます。フランシスがあの大きな修道院の大團體を持つたことによつて、失敗したその小さなものを其處には見たくはないと思ひます。

凡そ一つの主義なり主張なりは、對民衆的であらねばならぬのであつて、而もそこに樂々と民衆化されて了つた時には、その主義の純一性は失はれて、殘るところは假面と、虛僞と、形式とです。

分りきつた話しが、旣成宗敎がひとつとして、創始當時の單純性を有つたものはなく、素朴簡靜なものは重々しい、又は喧騷なお儀式と經典の平面形式解釋と、職業的な宣傳とより他には何者もないのです。それは併し分りすぎたほど分りきつた話しで、親鸞を亡すものが今の眞宗であるとすると、キリスト敎を亡ぼしたものは今の敎會かも知れません。

醇乎として神の道に醉ひ、念佛の信行に沒我しきる人でなくて、眞實なる傳導ができてたまるものではありません。

今に一燈園の托鉢が職業化されて行きはしないかといふやうな、さうした杞憂は馬鹿氣きつたものかも知れませんけれども、でも一步蹈みあやまると、そこには墮し易いやうな氣がします。

がしかしこれは私のあまりに窮屈な、自我にたて籠りすぎた見方であつて、實はすべての主義はかくして民衆の手に渡り、混然としてあらゆる形を生みゆくところに偉大性があるのかも知れません。

所有欲を基本とする社會の欠陷を、丁度逆にゆくゐゝした無所得主義の生活が、その謙遜と至純な態度によつて、ある程度まで救ひ得るだらうと思ひます。唯物史觀の幻滅に苦しむ人々にとつて、唯一の光明かも知れません。それだけ私は期待してゐます。且つまた私はあの生活樣式を內面的に考察すると、そこには非常に緊張した修道者の尊

い氣持ちを感じます。

あの生活を經驗した人の話しによると、饑餓と勞働と無理解な社會に對する忍辱とで、恐らく人間としての最上の苦しみを味はねばならぬといふことでしたが、でも苦しみの爲めに苦しみを體驗するだけならば、恐らくこんな無駄な、徒浪な經驗はあるまいと思ひます。犯罪者に對する牢獄の生活と、そこには何等選ぶものはないでせう。長い獄屋の生活にしたゝか自己を虐げつくして、而して社會に出た時にほつとして救はれる。これこそその人にとつての眞固の救ひだらうと思ひます。大乘佛教に於て、小乘佛教の苦行難行の徒らなるを尊ばないのは、中々に面白味があると思ひます。

◎

いかに强いことを言つて力んで見ても、人間である悲しさには、個々その有てる物から惱まされ、煩惱には苦しめられ、自らなる理智に脅かされがちです。此身を捨てゝ何かそこに救ひはないであらうか、否、此身此まゝの救ひがないとすれば、此身でこの身を救はねばならぬところに落ちてゆきます。

「汝の信仰汝をいやせり、床をとりてゆけ。」

と言はれて、はつとして氣が付いて見ると、成程自分自身の信仰で、自分自らなる病ひを醫やすより他にはないのです。天國を購ふものは、その人自らなる信仰より外には何者もないのが眞實です。

けれども人間である悲しさには、どこまでその持てるものを捨て、理智と煩惱を斷ち得べきか、捨つることと斷つことが、天國を購ひ得る唯一の手段方法でなければならないのではあるけれども、而も依然としてそこには何うにもならない身ひとつが殘されてゐます。

即ち煩惱の身が、罪業の身が、有所得慾になやむ身が、而も斷ちがたい煩惱になやむより以上に、諦めがたいのは、絶對の救ひそのものです。

煩惱具足の身であることを知らなかつた昔よりも、すべての希求が煩惱であることを知つた今の方が苦痛は倍加します。懺悔する現在よりも、懺悔する罪すら感じなかつた昔の方がどれだけ生そのものに對する純一性があつたか知れません。

けれども昔にかふる倍加した苦痛を、純客觀の態度で靜かにながむる心境だけは、明かに體得したと言へるのです。無所得なるが故に有所得なり、空なるが故に色なり、といふ境地は、たしかに味ふだけの尊さはあります。

罪業の身であると、純一なる謙遜で、徹底した時に、救ひはあるに相異ありません、それそのまゝに涅槃であり、天國であり、極樂淨土への往生であらうかと思ひます。

◎

私は自分の家族に惱まされ、殆ど虐げんばかりに自分の心を痛める時、いつでもその救ひに立つ一人の男があります。それは京都のある暗い町の二階に栖んで、輸出扇子の繪をかいてゐた男です。私の知つた頃はまだその男は廿二か三のうら若い、蒼い淋しい顏をしてゐる男でしたが、その妻はまた無敎育と言つて好いか、沒常識と言つて好いか、お話しにならぬ位、その良人を虐待してゐました。この若い夫婦の成立ちを、ある日私ももの好きにきいたことがありましたが、男の話しでは、父の後妻に一人の連れ子があつて、自分がまだ扇子の工場に徒弟奉公をしてゐる時分から、それとめあはすことになつてゐたが、自分が嫌ひで結婚は延々になつてゐた。そのうちに父は左の腕を挫いて、仲仕の仕事が出來なくなり、自然この父と繼母と連子と、繼母に出來た二人の妹とを養はねばならなくなつたので、工場を退いて、この連れ子と二人で別に世帶を持つやうになつたのださうです。扇子の繪を描く仕事は、その工賃が一日にどれだけの者になるかは分りませんが、少なくともその兩親と二人の妹とを養ふ上に、自分達夫婦、それには今年生れた赤坊がありましたが、この七人の口をぬらすだけのものは得難からうと思ひました。けれども扶養の責任は持つてゐたと見えて、この家の二階からこつそりと下りてゆく脊中に子供を背負つた母親は、いつも右の手に米の入つた汚ない風呂敷包を提げてゐるのを私はよく見かけました。若者は日一日、五分の小休みもなくせつせと拙い技巧で繪を描きつゞけてゐましたが、その机の前では妻は潤のない、燋つたやう

な薄氣味わるい顔をして、赤坊を叱り々々胸を擴げて乳をふくませてゐました。

　さういふ生活が一年か一年半ばかり續いたあとで、輸出不況から扇子の仕事は見るも悲慘な位途絶して了つたのです。けれどもそのうちに男は何ういふ風に工面して來るのか、恐らく話しにならない安仕事であつたでせうけれども、家族の手前いつも机の上には扇面紙を積みこんでゐました。するうち男は營養不良と、神經衰弱とで、めつきりと健康をそこねて仕舞ひ、時には机の上にばつたりと俯伏しになつて眠入つて了ふことなどがあるのです。すると妻は眼に角だてゝ小汚なく罵しりながら搖ぶり起こしてゐました。

　さういふ生活がつゞくうちに、でも頓て男は死んでゆきました。矢張り夢か幻のやうに机の上にばつたりと俯伏したふれて、妻も誰も知らないうちに、安樂といはうか、儚ないといはうか、何とも形容のできない淋しい往生を遂げてゐたのです。妻は八百屋に芋でも買ひにでかけたらしいのですが、歸つて見るとその有樣だつたのです。

　でもその日の夕方人々が弔問にゆくと、おい々々泣きながらその話しをしてきかせたと言ひますから、彼女にすると唯一の信頼すべき良人だつたのでせう。

　その若者が死んで救かつたと思ふほど、消極的な見方はしたくはないのですけれども、でもその若者にとつて、さうした自然の死を選ぶより外、何の救ひがあるでせう。

　ゴルキーのどん底の中から出て來る人間には、迚も私共には想像もつかないやうな、強い、力に漲つた、恐ろしい人間がでてきます。虐げ盡されて、死を選ばねばならぬやうな、蒼白い幽靈はでてきません。けれども幽靈として生きねばならぬ身であつて見れば何うしませうか。

　唯物史觀に救はれ損なつた人間の部類か、又は性格の悲劇か。さう、その男の有つた性格がさうした運命を作つて行つたものならば、默々として生の苦を哭ふより仕方がありません。

　けれども私は信じたいのは救ひそのものは平等であるといふことです。

うつろ

三ケ島葭子

いまさらにめざめ嘆くやわがいのちすでに久しきうつろなりけり

ことわりに盡しうべきやうつそみのいのちはつひに悲しかりけり

むなしきをひたに待ちつつなぐさめを求めんとだにわれの思はなく

しら玉の君がいのちに觸れがたく狂へる心抑へがたしも

わがこども心にかかり居るならん君をかなしと思ひそめにき

にはかにも春めく空となりにけり青みふくらめる白桃の蕾

うつそみのいのちの限り堪へてましおのが心にわれは誓ひぬ

ひねもすを思ひなやめりかかる日の幾日つづかば絶ゆる命ぞ

いたづらに時こそ過ぐれほとほとに人の心の動かすすべなき

ひねもす降りし春雨夜に入りていよよはげしく降りまさるものか

かなしめる我としもなしいつしかと春さて空ぞかすみわたれる

うつそみの深きさだめを思ふ日となりつつなほも悔いやまぬ我よ

この心いつか知らるる時あらんひとり思ひてたらふたまゆら

入日うけて雲の裏みな輝けり思ひつめたる我のためいき

にはかにも暖くなりし春の街を日に照らされて歩みゐにけり

婦人運動の國際化に伴ふ國際語の必要

淺井惠倫

人間生活にとつて價値があり、又人間生活を發展せしめんとする諸の運動は、小社會から人類總體へ、地方的から國際的に進み、斯くしてその力を得てくる。世界の一隅で起つた小さい波紋が全世界に及ぶ。少さい周圍から世界を背景とするに至る。その傾向は益々強くなつてくる。それは近代の交通機關の發達、國際經濟の複雜、人類意識の發展が原因する所であらう。總てが國際化する。日常生活、學術、思潮、特に諸の文化的運動。

人間生活に於て特殊の範疇に入れられてゐた婦人解放運動、それに附帶し或は進展したる婦人の利益に於ける諸運動は、人類生活を完全にし、價値あらしめる道の主要役目を演ずる。この運動の國際的なるは當然である。

團體となれば恐ろしく強い力となる、個々に於ての不可能が團體に於て可能となる。婦人解放、婦人の當然享有すべき權利の要求の強い意識が、團體となつて現はれたのは歐洲に於ても遠い過去でない。東洋は云ふ迄もない。團體となつてから著々その目的とするところを、現在の事情に於て望まれ得べき程度に於て獲つゝあると思はれる。各國

治警修正のよろこび

傍觀者より

新婦人協會が、少しく悲鳴を揚げ乍らも、一向專念に治警五條の「女子及」削除案の爲に、猛烈な運動をする、坂本眞琴氏甚だ振はぬ風彩で連日議會に通はれる。ぢつと私はそれを眺めて居りました。

最後の一兩日の報告に、貴院に傍聽者が當面の運動者三名のみであつたとの事、婦人全般の自由、解放、權利と云ふ樣な立場からでなくとも、今度の問題が通れば直接にひどく便利を得る人々がある筈、それはいざ選擧となると、此頃は特に流行の樣に、候補者平素御秘藏の夫人令孃令妹が、堂々と運動に御出掛けになる、今迄の選擧運動に、夫君の政見發表の演說會に入れなかつたのはずい分辛かつたにちがひない、將來は入場はおろか、花の姿の大演說に、微妙な心理を捉えて、會場の混亂氣分を和らげ、選擧者の同情も得られると云ふもの。さらばその將來候補者の夫人の方方が、下院では夫君なり友人なりの理解に一任したとしても、貴院の運動には、起つて援助をしても、よかつたらうと感ぜられた。

明治會館での島田、松本兩氏の講演には、眞面目に敬意を表して、友人五六名と拜聽した。松本氏はその後半を演說にされて、威勢よく、婦人のハンデキヤツプを高唱

に於ける婦人運動團體はかくして追々力を得てくる。その共通の——國の事情により多少內容を異にするも——目的の爲に進む團體が互に手を執り合ひ、歩調を共にすればより以上の力を得られるであらう。斯くの如き氣運を作る可きではなからうか。世界の各婦人運動團體が具體的に聯絡するなり、或は一大聯盟を作るなりして。人類に利益を有するこの文化的運動が、自然と國際化するであらうし、又せねばならぬ。

具體的方法は種々あらう。私は極めて小さい方法を考へたい。然も容易に實現の可能性を有する。著實に事業を成効せしむ可く進めるには、不可能な大きい事を考へる程に詩人になつてはならない。世界中の婦人が互に固く手を握りあふには、皆んなを連ぐ一本の繩が入用である、その繩は誰れでも容易く握ることが出來、そしてその繩は皆んなに理解と友情を與へるものでなくてはならぬ、凡そ共通のものをもたさずに理解ある共存のうちに置く程困難なことはあるまい。その繩として世界の人々を一つ言葉で語り合はしめんとする、美しい人類の言語なる國際語エスペラント程役立つものはあるまい。エスペラントは世界の如何なる國の人でも容易く語り得るやうに仕組まれてある。無理解と憎惡、混亂と爭闘のうちにある人類を理解と相愛、整頓と平和に導かんとするはエスペラント語の內部精神であるエスペラントは今から三十五年前に波蘭土の貧しき醫師なるザメンホフ氏が十年の苦心——貧乏と嘲笑と迫害——の

し、大に協會の人々を激勵された。この「婦人だから」と云ふ割引批判の事と、これは目で讀まして貰つて共鳴する感のあつた、時事新報の山浦氏所說（新婦人協會員と尾崎、島田、松本の諸先輩と記者數名とが、中央亭で「女子及」案運動についての懇談茶話會の模樣を、山浦氏は、婦人世界四月號に書かれてある）中のまだ〳〵皆さんは社會問題にもその運動にも子供の感があります。の二點は、自分の日頃口にするところで、進んで事に當らうとする婦人の十分に考へておかねばならぬ事と信ずる。「婦人としては」と云ふ樣な割引なしの批判をうけても、一般常識、理解の內容、そうして力とに、大なる缺陷なきに到る迄の、修養と努力が必要でしよう、御勉强を希望します。この意味で私は協會が時々試みる研究會・講演會なぞは、至極結構のものと思ふ。現在に於ても婦人は愼に進步はしてゐます。「女子及」なぞは、もう十年も前に削除しさくべきでした。然し、子供の部分が多い、「婦人だから」で、特別の敬意と待遇の下に、こん度の事でも、子供乍らに立派な成人の運動をし來つたものと思はれる點も多い。山浦氏の所謂子供は、迅速な正しい成長を持つものとして考ふべきです、速かな目ざましい成長を祈ります。婦人の要求がなくとも、不當にして偏頗極まる拘束は、その事が不當である爲に、改止の必要がありませう、內に成長し乍ら、外には不當である事を一般に知らしめ、知つたら兎込せずと、勇氣を以てその改正

後に出來上つた、主として歐羅巴語を元とした人工語である、人類の言葉として耻づかしからぬ完全さを備へてゐる。學び易い、主なる文法は十六ヶ條主なる單語は二千餘――精緻である――表現豊かな文學作品、正確なる科學記述を多く有する――異人種の迫害の苦い體驗を有するユデヤ人なるザ博士は人類の不幸の一原因は言語の不通にありと考へたのである、彼れのエスペラントの考案は、物好や自己の名聲の爲めでない、人類に對する深い深い愛から出發したのである、彼れは宗教的熱烈を以てこの新しい言葉を普及した。彼れを信ずる人達も亦宗教的熱烈を以て普及した、その結果今や地球の到る處にエスペラントの普及者と使用者を見出すのである。――正確な數は示せないが少くとも地圖に載つてゐる町や小町にエスペランチストの居ない處が殆んどない位。諸君が眞面目な研究心を有するならば、數ヶ月の研究が充分に一人前のエスペランチストに仕上げるであらう。各國にエスペラントの研究普及機關がある。――日本は東京市牛込區新小川町三ノ十四日本エスペラント學會――世界中のエスペランチストが互に聯絡する機關が充分に備つてゐる、讀む可き本や、雜誌は意想外に多い貧乏人の私には買ひ切れない位――自分の思想を發表する程に慣れるにもさまで困難はない――私達日本のエスペランチストは、日本人の爲せる學術研究の論文をエスペラントにて海外に發表すべく準備してゐる。

世界のエスペランチストは單にエスペラントの研究使用に力を致すべきものであると云ふ事を、絶えず有効に叫ぶ必要がありませう。

如何なる團體にも必ずある様な、會の内部の嬉しくない狀態(貧乏や、人の去就や、不平やら)は、ぢつと見て居る者の目に、止むを得ない無理からぬと、うなづかれ又同情もされる。しかし、亞米利加の市川房枝氏から『新婦人協會の主腦者の一人であつた關係から、特に言論界からの注意をひいた。協會の責任が、此れで見ると、非常に重い』と云ふ樣な通信が來たり、團體としての運動の實際的の重味なぞを考へ合はせて、皆が小さき我を捨てるに務め、日本の婦人問題の爲め、と大きい考へに生きて、忍耐する事ですれ。過日列車中で Japan Times のマネジャーの芝氏に會つたら、外國へ紹介したい、相當の反響もあらうから、是非今度の協會の運動の精神内容その經過の記述を、坂本眞琴君に頼んで吳れとの事であつた。自らを自らの屬する團體を、小さく見過ぎてもいけない。廣い意味で自重をする事です。(ゆ)

一九二二、復活祭、

婦人總同盟へ

兒玉眞子

個人的自覚の時代は過ぎて、社會的自覚に移つたと云

者ではない、明日の美しい人類の世界を愛と平等、喜悦と平和の因襲的の國境を破つた新しい社會を——建設する爲に互に努力してゐる。婦人問題は我等の最も注意する所であつて、二三のその爲の婦人によつて作られた特別の協會がある。

團結！、世界の婦人の團結——心と心の——は、最後の勝利を與へるものであらう。團結すべく國際語エスペラントに來れよ、而して一つ言葉を語り合ひ、御互に手を握り合はう。婦人運動の國際化を眞面目に考へる人は直ちに實行するであらう。

個人と集團との間に生ずるもの

——團體の眞實の發展を希ふ人達へ——

芳田邦三

集團と言つても廣漠な意味を含有して居る。それは私も知らないではないが、題目に掲げた團體の眞實の發展のなる處から考へて、私は集團を單なる團體として取り扱ふことにせねばなるまい。團體は集團だ。而して集團は團體だ。團體は何がために生れたか、先づこの問題からかゝろう。能力は個人としても團體としても、又は機械としても、工具としてもなくてはならない油だ。能力のない所には必ず死がある。

ふて居りますが、女性一般はまだその個人的自覺にすら達して居りません事は洵に嘆しい事であります、一個人としての女性が文化生活の上に立つ社會的女性と云ふ進歩の境に達する迄の經驗には、まだ幾多の困難や迫害もありませうが、それに對しては殉教者の覺悟を以て奉仕する犧牲の精神がなければならぬと思ひます。これからの日本文明の眞髓を國粹的に顯揚する事も亦文化的に世界ナイズする事も、眞に覺醒した婦人の赤誠に俟たなければ出來るものでなく、同時に國家の進運が大成せらるゝものではありません。私共が我が新婦人協會の事業の手初めに、治警第五條撤廢に奔走しましたのも、先づ覺醒の第一歩に女性を導くと云ふ微衷の發動に外ならぬのであります。人類の幸福も、家庭の平和も、奴隷根性を解放されたる人類崇高の觀念に發しなければ、人類の向上が期し得られるものではないと深く自覺すれば、これ迄のやうな、女性の天分に、聽覺をさへ妨害された法律の修正は、ほんの私共理想の一部ではありますが、即ち奴隷根性の解放を意味するものとして私は無上の悦びを感ずるのであります。今後の私共女性は一層努力、修養、研究、を積み、これを活用して婦人としての當然の權利を主張して漸次政治的にも、社會的にも平等の資格を獲得しなければなりません、その時こそ初めて、本當の意味に於ける理想的平和の家庭は保たれ、人類の幸福は得られます、そうして男女一致協力して人類文化に勤め、

個性がその使命を果すために念願を生む。使命を果すといふ一つの仕事にも力が要るではないか、あることを成し得るものが能力であると思ふ。

この何物に於ても持たねばならない能力は、時として或は個人として、大小の區別はその個性の使命又は念願上から考察して表現する。

社會は自分だ、自分は社會だ、自分を生かす爲めに社會を生かさなければならないと同時に、社會を生かすために自分を活かさなければなるまい。

自分を生かす(使命なり念願なり確信なりの)ために大きな社會を相手にしてかゝらねばならない譯であつて、小さげな個性に取つては大きな責任だ。

個人個人にいくらかの能力がある、この小さな能力を數多く集めたならば、之に正比例してその集團だけの能力が現れるではないか。一滴の水といふ小さな能力でさへ、多く集り結合すれば、大きな能力を發揮するではないか。

大なる能力あるが故に、その使命も又大だ。(結合せるものゝ)故に大なるだけに用ひ上げられる。例へば水車に用ひ水力に用ひらるゝ如し。

吾人の個性結合も、その團體能力となつて個性にては絶對に出來得ない機能を表現するものだ。社會改造、勞資協調政權獲得の聲は悲慘なほどに叫ばれてゐる。

この社會改造勞資協調等のために、主義徹底、目的貫行のために多數の集團が表れて、能力と壓迫の挑戰をあげて各

我日本帝國をして世界に誇る國家たらしむる事は私共女性の力だと確く信じます、私共の今日は、たとへ一分時たりとも無意味に過す時代ではありません、個人の力は微弱なもの、婦人通有の小さな感情は捨てゝ、先きの號で奥むめお氏も説かれた通り女性は、ほんとうの總同盟をして力の續くかぎり勉勵、努力、一日も早くすべての權利を獲得し、人類文化のパラダイスを實現したいと思ひます。

お祝ひにかへて

黒崎悦子

英國の經驗論功利論の中心人物であつたジエーエスミルの曰く『滿足せる豚たらんよりも不滿足なる人間たらんことを欲するからである』と即ち我等はたへず宇宙の絶大なる神秘に接せんとする大理想に向つて奮進する所に光明が存するのではあるまいか、古くはアリストテレース以來近くはシエリング、ヘーゲル等に由つて主張された如く一切の生物が時間的に進化することは認められ、生活體の進化に伴つてこの適合が益々完成され、内外の調和は愈々完全となり、個人が有機體なると同時に社會團體も亦有機的關係を有するといふ論證を得て、時代の要求は勿論預つて力あれども、今回我新婦人協會が數年間の悪戰苦鬪によく堪へて、遂に獲得された治警第五條

々の個性の爲に自己を殺してゐる狀態は、近代社會の特徵とも言ひ得やう。

少しく極端に過ぎたやうだが團體のその目的を貫いて行かうとする際は、何れのものでもその行爲だけは首腦たる人に委任してあるやうだ。

畢竟團體の精神によりて、その行爲の範圍及深さを一定しその範圍内の行爲を外界と對照して右分子たる個性を總括して行ふべきであるが、爰に注意すべきはその團體の行爲として最良最善なりと確信すと雖も、ある個性に大なる惱みを、然らざれば悶えを、然らざれば恐愕を與へることがある。

團體の分子とはいふもの丶、個性と個性とは一個のみの個性と同一視することなかれと私は叫ばずに居られない。

分子なくして團體はない。

分子の承認のない所に團體の精神はない。

首腦者と分子との間不和なる所、決して發展はない。

要するに團體(又は集團)は分子たる各個性と首腦者との間に、平和な理解があつて初めて立派に成立するものなのである。

首腦者たる個性が名譽のために、利己のために、將又自己一個の個性のために(即ち自己の使命と念願のため)一個人の計畫を各分子におし附け、無理解と不安とを無視してその行爲をなすが如きは、團體の如何なるものを知らざるものなるのみか、その各個性の反抗力大なるときは不平不滿

の修正案の可決は、眞に我國婦人の歷史あつて以來の、一大レコードとして光彩をはなつものだと思ひます、私は衷心感謝して止まぬ者であります、殊に私は自分の職務の立場からも、兒童敎育上、國民敎育に於て家庭は男女均等の樂園であつて、此處に若芽たる子供は生々と成長し個性を發揮し得る、大切なる學校の初步豫備たる男女の境遇に、現今の狀態に不平等不合理を表現し、敎育上一大缺陷と影響を及ぼしておることを目擊しておること十數年、どうかして家庭を建設し削造すべき男女性を均等にするために、現今の婦人に今一段の敎養と準備と自覺を要することを看破し、これに向つて努力するに日夜苦慮しておりますが、隨分幾多の涙多き迫害や苦心を重ねつゝあるのであります、然しこれも皆我婦人一般を向上し進步せしめ、男子の好伴侶とし、眞に心身の融合團結を期せんとする使命に外ならぬのであります。

今後の婦人は一齊に立つて精神の獨立自治に向つて專心日夜修養を積み、一時も早く男女均等の境涯に、自然の法則に從つて、男女協勞の樂土に住し、人類の文化を建設し、我國をして歐米各國に恥づることなき國家を進ゐるやう努めねばならぬと思ひます。世界平和のシンボルも女性中心ではありますまいか。かへすがへすも、女性の活路に燈臺の光明を與へられた第一步のこの治瞽の婦人運動は、その態度は紳士的で、その熱誠と勇氣は我國古武士の貞婦烈女と等しく、今更ながらその功勞を讚美せずにはゐられない。併せて不肖我國婦人の一人としてこゝに謹んで謝し祝福してやまないのであります。

の聲を聞くに至るものだとおもふ。

この個性の成長は自由なりと說いた。個性の成長は自由といふ八字を知るならば、自由の成長は壓迫することは出來ない。

この一語を知るならば、團體と個性との間に不滿公平ならざるものあるとき、その間に如何なるものが現れるかは今更喚々する要はあるまい。

然らばその集團と個性とを圓滿に平等に保持して行く手段如何と言へば、私は輿論を起すに限ると思ふのであるが、今爰には述べることを避ける。

個性を尊重せよ。

私は此の感想の結論をこう歸一するものだ。

個性の尊重、何といふ廣漠な平和の世界だろう。何といふ太平な、神秘な大空だろう。首腦者は月だ、分子は星だ、たがひに美しい理解と理解とを以て大空の平和とあらゆる慾望と自我を抑制する鍵を保持した、あだかも女神のやうに生成して行かねばならぬ。

集團は平和な團欒だ。

個性を尊重する首腦者あるところ、その集團は平和の團欒だ、平和な家庭だと、私は最後に叫んで拙い感想の筆を擱く。（想片(三)）

× × × × × ×

□婦人會館建設寄附金募集□

今度婦人が政談集會に會同する自由を獲得したのを記念するため、婦人會館を建設する事に決めました。我が協會の創立當時發起人の間に先づ會館を建てるか、仕事の方を先きに始めるかが問題になつた程、是非婦人會館も欲しいと思つてゐたのですが便宜上協會の基礎が固まつてからといふ事になつてゐたのでした。是非立派なものを築き上げたいと思ひますので、皆樣の御力添へを頂き度うございます。

左の規定を御覽の上どうぞ續々お拂込み下さい。

一、婦人會館は事務所、公會所、圖書室婦人共同寄宿所、婦人簡易食堂、娛樂室、運動場等を含むもの（大體の豫算は來月號にて）

一、大正十一年五月より向ふ五ヶ年にて建設の豫定。

一、寄附金は一口一圓とし、一口以上の事。

新婦人協會大阪支部の獨立宣言に對して送る公開狀

新婦人協會大阪支部會員であつた木場貞子氏外四名の連名にて、「この度大阪支部は本部より全く獨立して新たに大阪新婦人協會といふ名の下に活動を續ける事に決めた」といふ通知を受けたのは二月中旬でした。獨立の理由として、一、平塚らいてう氏が病氣のために引退してゐること、一、現在の本部の幹部が互ひに意志の疏通を缺いて會の仕事が振はないこと、が書かれてありました。實はそれより十日許り以前に五六新聞紙上にて大阪支部の獨立したといふ記事を見たし各方面に通知があつたさうだといふ事を聞いたのでしたが、直接何等の挨拶にも接してゐなかつたので、本部としては半信半疑の内に十日余を過したのでした。遂に幹事原田皐月氏に訊した處「當日の會合には出席しなかつたが、謄寫版刷りの獨立したといふ通知を受けて余り意外の事に私も驚いてゐる」といふ返信と同時刻の配達便にて、前述の意味の謄寫版刷りの獨立宣言書が一通到達したのであります。早速本部として相當の處置に出たいと氣にし乍生憎當時治警運動に忙殺されてゐた上に、其交渉を委された與が止むを得ぬ事故にて可なり久しく郷里に歸つてゐた等の事情から遂に延引して今日に至つたのですが、遲ればせ乍らこゝに公開狀を發して本部の態度を明かにする事にしました。

一、本部は大阪新婦人協會の名の下に支部が獨立する事を拒みます。全く關係のない二つの會が混同される事は雙方にとつて不利、不便である。猶大阪在住の會員より新しく支部設置の希望を申込んでゐる折柄更にその必要を認めます故意に混同され易い名稱を撰ぶのは批難さるべきであると思ひます。

一、今度の大阪支部の獨立は支部全體の意志とは認め難い。前記原田幹事の返信以外にも、會員中(大阪支部屬の)から本部へ問合せて來た人もありました。此際大阪支部に屬してゐた方々は引續き會員であるか脱會するかを決めて頂き度い。　以上

五月八日　　新婦人協會

先般大阪支部會員中にこの擧あつた事は獨り大阪婦人界にとつての不幸であるばかりでなく、われ〳〵婦人全般の大きい不幸であると云はねばなりません。今や社會の汎ゆる狀勢が、全婦人が團結して相協力すべき必要に迫つてゐる事を示してをります。私達は唯狹量に新婦人協會といふ名目だけの上に立つものではありません。何事も全婦人の解放といふ事を第一にしたいと思ひます。大阪支部會員の方々も、この際私の感情に捉はれる事なく最上と信ずる途を撰ばれるやうにと希望してやみません。そして獨立した人々に依つて組織せられたといふ會も、圓滿に發展してゆくやうにと念じます。　（む）

新婦人協會々報

青葉に反映する初夏の陽ざしの生々としてゐる事、吹く風に、草のいぶきに、天地は今蘇つたもの丶勢で生長を急いでをります。何がなしに自分達若い者の時代が來たやうな力強さと得意さとを感ずるではありませんか。皆さまには益々御清榮の御事と存じます扨、わが協會で努力して來ました治警第五條の修正案がこん度通過しました事御同慶至極に存じます。私共の運動もこれからだ、といふやうな意氣込みを抱かせられてをりますが、お互ひに自重して進んでゆき度いものでございます何事にも成功をかち得る迄には多大な犧牲を要するものではありますが、殊にわれ〱婦人界の前途には未だ云ひしれぬ焦躁と不安と障碍とが横はつてゐます。今こそ若い者の特に婦人の自重して起つべき時であります。

今後の運動方針に就いては七月號で詳しく申上げ度いと存じますが、まづ政談集會に會同する自由を得たのを幸に大いに活用して働きたいと思ひます。各地で、それぞれ其地方の要求する形で集會を開いて、かくれたる同志とも聯絡がとれて發展してゆくやうに、皆さまの方で特に御盡力頂きたいものです。本部としても出來るだけの餘裕を作つて應援に出かけます。

各地に催された婦人政談大演說會が愈々婦人も政談集會の自由をとり戻したといふので、この法令が効力を生ずるに至つた第一日、(即ち五月十日)から各地で婦人團體が主催し、婦人が壇上に立つ政談演說會が行はれまして、何れも滿員立錐の餘地なき盛況であつた通知に接しました。猶追々各地方から申込や通知を受けますので、元氣づけられます。

本部でも十五日に行りましたが開會早々滿員に付お斷―のビラを出して、場の內外に溢れる聽衆の整理にまごついた程です。

今後は一層內容の充實に努めると共に、經濟上の基礎も固めたいと思ひます。

協會代理部擴張

責任者　衆樹安子　八木橋きい子

代理部をます〳〵發展させて行きたいと思つてそれ〳〵準備を急ぎましたどうぞ引續き盛んにこれを利用して頂き度うございます、御注文は全て前金にて願ひます、代價到達次第敏速に御郵送申上げます、云ふ迄もありませんが、取扱品は總て當方にて責任をもち信用あるものだけに限ります、

圖書雜誌類の紹介取次

如何なる種類の圖書雜誌でも御希望に應じて取次を致します、書籍をお需めになる方は、是非この機關を通じて下さるやうに、又廣くお知りあひの方々にも御吹聽下さるやう願ひます、

其他參考書、新刊圖書等に就いての御質問も受けます、これは往復ハガキ又は返信料封入にて願ひます、

婦人子供服類の取次

婦人兒童の服裝の原料や仕立賃の高價な爲めに思ふやうに改良が出來ないこゝを遺憾に思ひ、品質優良且優美にして低廉な品を提供する目的で、地球印洋服製造所と特約いたしましたからどし〳〵御注文を願ひます、カタログ、寫眞等御申越次第御送りします、

七八歳位木綿兒童服　貳圓五拾錢位

同　セル地及サージ　拾參圓位

拾二三歳（二割増）

メリヤス、織物、つくろひ機械

專賣特許　エンゼル　ハンドルーム

私共が日常使用してゐる靴下、莫大小、ジヤケツ、毛絹綿製品は容易に破損し易く體裁よく修理する事も困難でしたが、それらの修理機械エンゼルハンドルームは使用法は至つて簡易で、品質堅牢體裁優美携帶にも至極便利です、

（定價金一圓、送料一個五錢）

地球に向ひ獅子印　各種織物用防水液

防水液を加工しても其の質を傷めず、光澤を失はず手觸りも決して變らぬといふので、近來非常に需要を增して來ました、和洋服、コート、袴、洋傘、風呂敷、國旗、足袋其他如何なる布帛にもお薦めいたします、至つて手輕に出來ます、

木綿及絹織物用（甲）	
一升解キ分	九十錢
三升解キ分	二圓四十錢
五升解キ分	三圓五十錢

毛織物及毛綿交織物用（乙）	
一升解キ分	八十錢
三升解キ分	二圓十錢
五升解キ分	三圓

家庭重寶　ボルピーク

アルミニユーム、ホーロー燒、瀨戸引、銅鐵眞鍮、錫、金盥、バケツ等金屬製器具類の穴あき、漏りを修覆する薬品です、

定價金三十錢、送料五錢、

眞琴商會特製　マルセール石鹼

絹地、毛織物の洗濯に布地を傷めず特効あるマルセール石鹼、

定價金三十五錢、送料五錢、

理想的衛生優等　ロンドン齒磨粉

定價一袋　金十錢　一打　金一圓

羅紗製スリツパ

定價　一足　金六十錢

半打以上割引します、

新婦人協會 規約

第一條　本會は新婦人協會と稱し、事務所を東京市麹町區內幸町一ノ六（電話銀座三九二二番）に置く。

第二條　本會はその綱領に從ひ、婦人相互間の團結を計り、婦人の擁護のため、其進步向上のため、或は利益の增進、權利の獲得のために努力せんことを期す。

第三條　本會は第二條の目的を達せんがために、左記各事項中最も緊要と認めたるものより着手し漸次其の全體に及ぶ。

一、女子高等教育、小學大學の男女共學、普通教育女子教育の改善、女子教育者の待遇改善、婦人參政權、婦人に不利なる諸法制の改廢、兒童保護、母性保護等の要求をなすために、實際運動を開始す。

一、各地の有力なる婦人團體と連絡を計り、婦人共同の利益に對する日本婦人總同盟を組織すること。

一、婦人に關する諸種の特種問題研究調査會を設くる事。

一、婦人問題、勞働問題、生活問題及其他諸種の社會問題に關する講演會を各地にて開くこと。

一、機關雜誌「女性同盟」及「會報」の發行。

一、婦人勞働者の教化機關として學校を設置し、婦人勞働新聞を刊行し、健全にして實力ある婦人勞働組合を組織する基礎を造る事。

一、婦人身上相談・職業紹介、結婚媒介。

一、女子大學講座の開設。

一、事務所、公會所、教室、婦人共同寄宿所、婦人簡易食堂娛樂所、運動場、圖書館等を含む婦人會館の建設。

第四條　本會に左の二部を置く。

一、會務部――會計、通信、機關雜誌、

一、事業部（研究部、――社會、政治法律、教育、家庭、文藝
出版部、）

第五條　本會々員を左の四種に分つ、

一、正會員

一、第一種贊助員

一、第二種贊助員

一、維持員

第六條　正會員は本會の主義精神に贊成して入會したる婦人を云ふ。
正會員の會費を一ヶ月金五十錢とす。

第七條　第一種贊助員は本會の趣旨に贊成し、會費一ヶ月金一圓以上を醵出する男女にして、本會の事業を援助するものを云ふ。

第八條　第二種贊助員は各婦人團體の代表者及び智識又は勞力を以て本會の事業を援助する男女にして、本會理事會にて推薦し其の承諾を得たるものを云ふ。

第九條　維持員は本會の趣旨に贊成し、本會の事業を援助する男女にして、會費一ヶ月金五圓以上、若しくば一時金五百圓以上を醵出するものを云ふ。

第十條　會員は全部機關雜誌「女性同盟」及び會報の配布をうく。

第十一條　本會に入會せんとする者は、住所、職業、年齡、姓名を明記し、會費を添へて申込むべし。但し正會員は別に入會金一圓を要す。

第十二條　本會の會費は全て一ヶ年宛前納とす。但し分納することを得。（正會員に限り前納一ヶ年金五圓半ヶ年金二圓五十錢三ヶ月金一圓五十錢）

第十三條　本會に左の役員を置く。

一、常務員

一、理事

第十四條　常務員は若干名とし、理事會これを委囑す。常務員は第四條に揭げたる會務を分擔するものとす。

第十五條　理事は若干名とし、正會員より互撰す。理事の任期を滿一ヶ年とす。

第十六條　理事會は本會の運輸機關にして、會全體を總ぶ。理事會は一ヶ月二回以上を開くものとし、必要に應じては、何時にてもこれを開くことを得。尙理事中より代表者一名を選出し必要ある時は本會を代表せしむ。

第十七條　總會は毎年一回春季にこれを開會す、但し必要の場合は臨時總會を開くことを得。

第十八條　本會の經費は會員の會費、會の收益金、及び篤志家の寄附金を以てこれに充つ。

第十九條　本會の會計は會報及總會にてこれを發表す。

第二十條　同一地方にて正會員五名以上を有する時は支部を設置することを得。

第二十一條　本規約は總會の決議に依りて變更すべきものとす。但し緊急を要する場合には本部及支部の理事會にてこれを決することを得。

第二十二條　細則は別にこれを定む。

（以上）

マルタ（續き）

エリザ、オルゼシユコ

宮本貴美子譯

暮れて間もないにもう大分暗かつた。小町には細いあかりがチラホラ輝いて人通りが繁かつた。燈火のけの無い大通りはさみしく暗かつた。明け放たれた小門からは波のやうに秋風が冷く強く寄せては返して、立ちすくむだマルタが頰をかすめては、黑い頭巾をあほり立てゝゐた。車の響、人の足音、互々にさゝめく幾多の人の話聲、これ等の雜音は、マルタの耳には堪へきれぬものであつた。戶外の暗に怖けた彼女は、入口の中に五六步後退りして、首を項垂れて、二三分も立ち止まつてゐた。が、やがてスツト頭を上げて步き出した。可哀相な未亡人は、子供の事を思ひ出したのだらう。それに、又これから先は、日每夜時を嫌はずに、お菓子やいろ〳〵なものを、子供の爲めにも、自分の爲めにも、どんな事をしても勇氣を起して買ひに出なければならない事を思ひ付いたのだらう。彼女は頭巾を被り直して、小門の敷居を跨いで外に出た。どつち側に菓子やがあるか、通りの案内を全然り知らない彼女は、一軒每に店を覗き込むではどんどん當もなく步き續けた。煙草の小店や、カフエーや、吳服やの店などを通り過ぎたが、見付けられなかつたので戾つて來た。彼女にはもう其處から先きへは行く氣が無かつたのだ。又通りすがりの人に尋ねる氣力さえも無かつたのだ。然し反對の側を戾つて來た彼女は、それから

間もなく、白い風呂敷に菓子パンを少しばかり包むで歸つて來た。

ヤーニヨの待つて居た乳はなかつた。マルタは待つ子の爲めに是非欲しくはあつたが、留守に氣が引かれて、落ち着いて探しては居られなかつた。而して家へ急いだ、急いで急いで、駈込むばかりに門に向つて行つた途端に、自分の後から聲がした。而もそれは男の聲で、かう幽かに歌ふのだ。

「待つておくれよ、お前さん

ちつと、おまちよ、小足のねえさん」

彼女は咄嗟の間に、そんな歌を自分に歌つてゐるものでは無いと、無理にかきのけるやうに聞き棄てゝ息をもつかずに小門に駈け着けた。歌つた主は又、

「何處へそんなに急いで行くの、お前さん、馬鹿にいゝ晩ぢやないか、え？　一寸そこら邊までお供仕らうぢやないか、え？　どうだい」

若い未亡人は恐しさと憎しみとで、全身を震はせた。大門の中に駈込むで我れとわが後を堅く閉め切つた。間も無く室に入つて來た母親を見たヤーニヨは、マルタの首に跳び付いて、兩の腕でシッカと噛り付いた。

「何んて遲かつたの？　おかあちやん！」

と、叫んだが、急に口を閉ぢて、ぢつと母親の顏を見つめて、

「お母ちやん、お母ちやんは又泣きさうね、あの時ね、ほらあのお父ちやんをお棺の中に入れて、みんながあたちのお家から持つて行つちやつた時ね、あの時のやうなお顏をしてゐ………」

マルタは身内をがたがた震はせて、逆せた頬に止度もなく涙を流した。ひんやりする秋風に身を凍みながら、人眼多い通りを、暗を凍つた足下に恐れを抱いて、蹈みしめながらあせつたり、まるつきり知りもしない男から、受けた事もないいやしい言葉をかけられたり、彼女に取つては、本當に强い痛手でもあり悩みでもあつたのだ。マルタは今心から恐れ戰慄いてゐるのだ。然しそれは一時であつた。彼女は自分を鞭つて、一步一步に打勝つて行かなければ成らないと決心した。而して心を鎭めた彼女は涙を拭つて、ヤーニヨに接吻した。竈の火をかき熾しながら、

「ヤーニヨ、お菓子を買つて來ましたよ、そいで今直ぐにお茶ぶを拵へて上げますからね」

と云つて戸棚から土瓶を取り出して、ヤーニヨには火の側で温たまつてゐるやうに薦めて、自分は庭の井戸の方へと降りて行つた。間もなく水を一ぱい入れた重い土瓶を、腰を曲げながら持ち上がつて來た彼女は、氣の毒な位に息を切らして疲れてゐた。それでも少しも休まずに、お茶の用意に取掛つた。本當に彼女がこんな仕事を爲るのは今初めてなので、手際は至極まづかつた。が、程なく二人はなつかしいお茶を啜る事が出來た。それからヤーニヨは着物を脱がされて寢かされた。ヤーニヨの安かな寢息は本當に靜かな眠を思はせた。青白い顔には、終日流した涙の跡も消えて無くなつて了まつてゐた。

眠らない若い母親は、喪服のまゝに、黑髮を取り亂して、掌に顔を押し當てゝ、立ち消えさうな火竈の前に身動きもせずに座つて沈想に耽りはじめた。身にしむ苦痛を味ひ返しては白い額に皺を二筋三筋寄せて、眼には涙を浮べながら深い嘆息をついてゐた。けれどやがて、身邊に湧き上がる悩みも恐れも一切をもふり棄てゝ了まつたやうに、頭をもたげて、腰をスックと起て、

「新生涯!!」と幽かに強く叫むだ。

美しい若い彼女は、働きに慣れない白い手や、なよなよとした物腰で全く新しい生涯に入つて來たのである。實に今日此日こそ、彼女にとつてはあても無い未來に入る最初の日なのである。

一體彼女の過去といふのは、どんなものであつたらうか？

マルタ、スラィツカの過去といへば、時からいへば誠に短かく、事からいへば誠に單調な、ありふれたものだつたのである。

マルタの生れたところは、派手やかでもなければ、富有でもなかつたが、美しいすがすがした感じを與へる貴族の領地であつた。父親の領地はワルソーから五六里の所で、可成廣大な耕地や、諸花豊かな草原や、美しい樺の小林などがあつた。此林からとれる薪が冬中の焚ものになつた。又夏は涼しい朝夕の散歩地ともなつたのだ。住居の方は小さいもので、六つ程前庭に差出した窓があつた。綠の窓掛は一しほの美感を與へて居た。明るい露臺(バルコニー)の四本の柱には深紅の菽豆や、三色菫がまつはつてゐて奇麗だつた。

かうした花園にしつらへられた彼女の搖籃の上には、ナイチインゲールが高らかに心地よく歌ひ遊んだ、菩提樹の老木はいかめしい枝や小枝を悠々と搖がせた。薔薇は美しく開くし、小麥の穗は金色に波打つし、又或時は母親の美しい笑顔が彼女をさし覗いて黒髪の小さい子の頭を覆ふては、溫い接吻を重ねて與れたのである。

マルタの母親は美しい善人だつた。父親も亦學者肌の善人だつた。かうした兩親の間に唯一の娘であつた彼女は、どんなにか豊かな愛の惠みに浴した事だらう、して又何不自由もなくはぐまれて來た事だらう

然し此幸多い美しい快活な、曇氣の一つもない彼女の心にも第一擊の苦手は來たのである。それは彼女の母が死であつた。マルタは十六の時で、暫くは失望と、嘆息に茫然と過して居たが、若さは彼女に程なく香膏を降り掛けて呉れた。青ざめた頰には再び薔薇色がほんのりさした。生の喜も望も限りないあこがれもともに、元のまゝにかへつて來たのである。

然し間もなく又他の不幸が到來した。マルタの父親は自分の本來の不注意の爲めもあらうが、主としては、自國内に起つた經濟上の變化が原因して、自分の財產を失はなければ成らなくなつたのだ。その上彼の健康上にもぐらつきが來たので、財產の滅亡ばかりではなく、命の末路までが近いて來た事を豫想したのである。然しマルタの運命はその時既に定まつて居たやうなものであつた。云ふまでもない、彼女は愛し愛される身と成つて居たからである。

ワルシヤワのある官廳で、可成な高官に居た、ヨハン、シユウイツキといふ若い役人が、この美しい黑眼がちの小娘を愛し始めてゐたので、自分に對する尊敬と愛情の思ひを、マルタが心に目覺ましめたのである。マルタの結婚後數週で父親は死んだ。失敗した此貴族は、獨り娘の爲めにもつと花々しい運命を夢見ても居た事だらうが、遂に富有ではなくとも、極めて勤勉な此男に喜んでめあはせたのである。マルタが結婚の祭壇を降りると同時に、もはや彼女の未來といふものには孤獨の苦惱や、貧苦の危險は來ないものと信じきつて、父親は靜かに死んで行つたのである。

生涯の二度目の苦痛がマルタの上に來たのであつた。が、今度は彼女の若さと、妻として、又追つては母としての愛が、その苦痛を靜めたのである。彼女の美しい故鄉は、かうした父の死と共に永遠に失

はれて了まつて、見知らぬ人達の手に移つて行つたのである。然しその代りに、相愛の夫が、賑はしい都會の眞中に、情けを込めた便利な巣を彼女にしつらへてくれたのである。その巣には間もなく、銀鈴のやうなおさな子の初聲が響き始めたのである。

若い未亡人はかくしてゐたゝかい家庭の悦びやつとめの間に五ヶ年といふものを、幸福に、速かに過ごして來たのである。

ヨハン、シユイツキは、眞面目にさかしく働いた。從つて可成りな收入があつたので、愛人の爲めには何ものをも事かゝさなかつた。彼女が生れてから常住使ひなれてゐたものは云ふに及ばず、時々刻々を魅するやうなもの、又あすの日の爲めに悦びをもたらすやうなもの、なべて彼女をたのしませ、よろこばせるやうなものを取り揃へてはくれたのである。然し凡て？　將來を意味する凡て？　否々最も近いあすの日の事ばかりであつたのだ。彼は現在の悦び――それもほんの僅かな事でさへ――傷けてまで將來の爲めを思ふ事などは、到底出來得ない性質なのであつた。刹那刹那、今日よりあすと、短い淡い悦びをもつて、愛人をとりまかうとつとめた男である。

若い、强い勤勉な彼は、自分の力をたのみ、若さを誇り、働きに自信をもつてゐた。而してかうした寶は汲み盡されるものではないと考へてゐた。然しそれはあまりに早く汲み盡されたのだ、彼は遂に醫者の助力も、失望した妻の努力も何もかも、救ふことの出來ないむづかしい急病にとりつかれて了まつたのである。そして彼は死んだ。彼の死と共にマルタの家庭の幸福は滅茶々々になつて了まつた、同時に、マルタの足下からは凡ての物が影を消して了まつたのである。

結婚といふものが、若い女を孤獨の苦痛と貧窮のみじめから永久には救ひはしなかつた。現世のもの凡べては、決して永遠に存在するものでないとは古い公理であるが、マルタの上にも眞實となつて現はれて來たのである。實際人の世の事は、あれこれと定りをつける事は出來るものではない。一體外部から人間にぶつかつて來る凡ての事柄は、社會との關係とか、配置とかに依つて動くまいとしても動かされる事もある。又結び合つた幾數千の流れや、さま／＼ともつれ合つたもの丶影響、又は最も恐しい打擊、かうしたものが代る代るに、盲目的に押しかけて來る時は、豫見したくも、計算し度くも出來得難い事がある。此世に住む人の運命といふもの位、ま丶ならぬものはない。自分達の全身の力も、持物も、風のまにまに流れ流れて行く波のやうに、逃がれがたない世の浮雲に包まれて了ふのである。本當に世の中に永遠に存在してるものは一つだもありはしない、只自分のあたまの中に、胸の中に、納めてある、或ものよりほかには、何一つだつて常住あるものはないのだ。

凡ての者はマルタから離れて行つた。外部からよつて來た凡のものは、マルタの幸福と、生活の安定とを破ぶつて了まつたのである。然し彼女に與へられた今の運命といつても決して特別のものではないのだ。彼女の不幸は實にありふれた方法に依つて、世の常のしきたりによつて、不自然ではなく、自然の姿で、而も突然に押しよせて來た運命である。天災ではない、人類の歷史にもこれ以上あたりまへの事はなからう。財政上の滅亡と死、只これが彼女を靜かな春の生活から、つき落したまでゞある。眞實、これ以上のありふれた事實はないだらう！　家財破滅と死、これはいづれつきまとふ常規である。一つはあまりに多い世の出來事であり、一つは又、望まずしてさけ及ばざる人間の事實である。（未完）

原稿募集

論　文　二十枚内外（四百字詰）
時事批判　長短隨意
創　作　三十枚内外（四百詰）
感想文、詩歌、飜譯その他
締　切　毎月十日

婦人の力で經營するこの雜誌が婦人ばかりの手で内容を立派に充たす事が出來ない事は恥づべきです。是非みなさんの御奮發を願ひます。なほ雜誌の内容や編輯部に就いて御批評御忠言を頂き度し。原稿の取捨は編輯者に一任して下さい。

編輯だより

雜誌の校正が出る頃には毎も決まつたやうにこんな貧弱なものを出す答ぢやなかつたのに、と恥づかしくて堪らなくなります。今月ももう一度云ひわけを言はせて頂きますなら、私の實家に不幸がありまして一ヶ月丸つぶれにつぶれてしまつて、雜誌の事で頭を使ふ餘裕がありませんでした。私は協會の仕事の中で、女性同盟に一番力を傾注したいと思つてゐるのですが、毎度々々こんな事では、辭職する外ありませんね。相本まさをさんも全快して歸京してみえましたから、七月號からは自信の持てるものをお目にかける事が出來やうと樂しんでをります。既に大體の編輯を終えました。平塚さんに少し原稿を書いて貰ひたいのですが、ちつとも送つてよこしませんから困ります。みんなから手紙で攻撃をして少し書かせたいと思つてをります。（む）

定價表

一部　金三十錢（郵税五厘）
半ヶ年　金一圓七十錢（郵税共）
一ヶ年　金三圓三十錢（郵税共）

廣告料

特等　一頁　四十圓
一等　一頁　三十圓
二等　一頁　二十五圓
　　　半頁　十五圓
二回以上割引あり

注意

▼御注文は總て前金で願ひます。
▼御送金は振替で御拂込下さい。
▼郵券代用の際は一割増の事（五厘切手にて）
▼誌代の領收書は雜誌發送を以てかへます。
御入用の方は端書封入下さい。

大正十一年五月廿五日納本
大正十一年六月一日發行（第十四號）
編輯兼發行印刷人　奥むめお
東京市外西巣鴨町宮仲一九九六
發行所　新婦人協會
電話小石川　未定
振替東京五〇九〇〇番

當分の内絶對に書店に出さず。直接に御申込みを願ひます。


プラトン萬年筆
技巧が良い…体裁が良い…持ちが良い…何よりも其のペン先が良い
何時までも削らずに書ける専賣特許の萬年鉛筆
プラトンシャープ鉛筆
一圓以上 數十圓迄
日本文具製造株式會社製造
中山太陽堂文具部發賣

女性同盟　六月號
（大正九年十月一日第三種郵便物認可
大正十一年五月廿九日印刷納本）
大正十一年六月一日發行
（定價一部參拾錢　税五厘）

